



# 体験記

浄霊による個人の感想

明主様は、浄霊によって魂が清まると運命が向上し、幸せになることを、事実を以て示されております。  
次に紹介しております数々の喜びと感謝の体験記も、そのことを広く物語っています。

## 余命宣告された母 81歳まで命をいただく



白木原支部  
藤下俊一 (71)

私は昭和五十年二月（二十五歳の時）に新健康協会に入会させていただきました。入会の動機は、母のことがきっかけでした。

母は五十歳頃から更年期に入り、その頃から体調が良くありませんでした。そのため一度病院に診てもらおうと検査を受けたところ、一件目のお医者さんからは「特に心配するようなことはない」とのことでしたが、別の大きな病院でも検査してもらおうと、「子宮がん」と診断され、その病院でコバルト60による治療を受けました。すると、母の様子が一変して病人となっていました。

母は常に具合が悪く、極度に悪寒がして、ガクガク震え出したり、様々な病状が重なったりと、何とも言えない苦しい状態になりました。何とかしてほしい思いで病院に通っていました。母が明かす、他の病院にも通いましたが、なかなかこれというところもなく、病院からは「いつ

とは言えないが、長くは生きられない」という信じられない余命宣告みたいなことを言われました。

それから色々な治療法を試しましたが、母が良くなることはありませんでした。そんな時、姉の勤務先の方が浄霊という方法があることを教えてくださいました。後日、その方の自宅を訪れ、浄霊の詳しい話を伺いました。また、浄化作用のことや、浄霊は人の力ではなく、神様の力であることを聞きまし

た。私は、人の力でどうにもならないなら、もう神様の力にすがるとかと思いませんでした。母も姉もすぐにそう思い、支部を紹介していただき、早速支部を訪ねました。色々なお話の中で、会員になれば、自分自身の浄霊も出来るということに入会を希望しましたが、「まずは浄霊を体験してみてください」とのことでした。おかげ様で浄霊をいただくようになってから、母は体温が低くかみを覚えるようになり、以前あった悪寒がなくなりました。その後、段々と状態が良い方向に改善していき、食事の量も増えていきました。そのため、体力も戻り、以前の状態が嘘のように、浄霊で素晴らしい奇跡をいただきました。

また、支部へ通い始めた早い段階で、入会することもできました。「長くは生きられない」と言われていた母も、その後、様々な浄化作用の体験を積み、おかげ様で徐々に元気になるようになりました。

振り返りますと、三十年ほど長く命の継ぎ足しをいただき、八十一歳まで命を賜りました。はじめは「どうしてこんな状態に…」と悔やむこともありましたが、このことがなけ

れば浄霊との出会いもなく、最高の神様との出会いもありませんでした。そのため、母はいつも「明主様！」と感謝しておりました。私もそんな母の浄霊をさせていただくべく、入会をさせていただき、今年で四十五年の歳月を迎えました。

## 腰の激痛 浄霊で歩けるように

令和二年三月十五日、夕方、掃除機をかけている時に、右のお尻の中心部に突然激痛が走り、あまりの痛さに身動きが出来なくなりました。過去にも経験があり、早い時は三、四十分くらい浄霊をいただいで軽くなっておりますが、今回は段々と痛みが強くなり、お尻だけでなく、太ももまで痛くなり、時間が経つにつれ、ふくらはぎも痛くなりました。

一日目、二日目と、痛みで眠ることも出来ず、横にもなれず、三日目も強い痛みが続いておりましたが、浄霊をいただくことで落ち着き、その日には眠ることが出来ました。その後、自分でしっかり浄霊をいただく、出にくかったお小水も出るようになり、浮腫みも徐々に改善していきました。

おかげ様で激痛になってから四十五日後には痛みもだいぶ和らぎました。歩行もひどい時は二、三歩しか歩けませんでしたが、スムーズに歩けるようになりました。さらに食欲も出て、食事の量も増えました。本当に浄霊は素晴らしいです。

どうぞこの新聞を御覧になられた方は是非浄霊を試してみてください。明主様、誠に有難うございました。  
(福岡県大野城市)

## 頭痛咳 浄霊で楽になる



ネパール  
バクタプール支部  
ビスヌ・ケソリ  
カヤマリ (66)

私は一九九一年から頭痛になり、咳もたくさん出ていました。良くなるようにと思っても色々な治療をしましたが、全然良くなりませんでした。

そんな時、親戚から浄霊のことを教えてもらい、その日から浄霊をいただきました。すると、浄霊をいただくようになってから頭痛が段々と楽になっていき、咳も減っていきました。

私はとても嬉しくなり、明主様に感謝申し上げます。そして、一九九四年に入会しました。現在では、支部に行つて浄霊が出来るまでになりました。私自身もよく浄霊をいただきますので、日々元気に過ごすことが出来ています。

明主様、誠に有難うございました。  
(ネパール・バクタプール)

## 浄化作用ってどういうこと？

人間には体内の毒素を排除して健康を促進しようとする働きがあります。例えば、カゼの場合、蓄積してきた不純物や体外から入ってきた毒素を浄化するために熱や痛みが出ます。そして、その結果ハナやタンなどが出て体の中が掃除され、霊・体共に清浄化されます。その毒素排除の過程を浄化作用と言います。ですから浄化作用は、体の不調和を調和させる、大切な清掃作用でもあるのです。

## 奥歯の激しい痛み良くなる



桜井支部  
下田鈴代 (60)

私は、新健康協会にご縁を頂き三十五年になりますが、これまで大きな浄化をいただくこともなく、健やかな日々を過ごしてまいりました。

令和二年五月上旬、以前治療していた右下の奥歯に違和感を覚え、おかしいなと思っっているうち、徐々に痛みが増してきました。痛みは毎日に激しくなり、十日余り続きました。また、それに伴い、口の中や左頬が腫れ、一時は顔の形が変わつておりました。

しかし、そのような状態であるにもかかわらず、おかげ様で普段通りにいたご飯をお茶漬け等にして流し込み、夜も痛みで目が覚めることはあっても、眠れないということはなく、仕事も休むことなく続けられました。

この度の浄化のおかげで、支部へお参りに行く回数や、浄霊をいただく回数が増えました。浄霊をいただく毎に歯の痛みや頬の腫れも良くなっていき、歯の痛みや頬の腫れも良くなっていきました。その後、完全に良くなってからは、より元気に日々を過ごしております。心より浄霊の素晴らしさを実感しております。

現在、多くのことで悩んでおられる方、不安を感じておられる方が、一人でも多く、支部の門を叩かれ浄霊を体験し、幸福になっていかれますよう、心より願っております。

明主様、誠に有難うございました。  
(奈良県桜井市)

ゼンソク、痛風  
浮腫みも良くなる



小倉支部  
三浦和之 (55)

私は、子供の頃から明主様に御縁をいただいています。幼少期は、ぜん息、近年は痛風や尿管結石を患いました。浄霊のおかげで日々元気に過ごさせていただいています。

昨年六月中旬、胸から腹部、背中等にかけて痒みを伴う湿疹が出ましたが、毎日支部で浄霊をいただき数日で良くなりました。

しかし、六月下旬ごろから右足の裏が浮腫んで、痛みのために地面に足を着くことが出来ない状態となっていました。翌日には痛みが右の膝にも広がり、激しい痛みで足を曲げることが出来ず、さらに足の痛みに加えて高熱も出ていました。

次の日には左膝まで激しく痛み、その後左足の裏までも痛むようになりましたが、支部で毎日浄霊をいただくとともに、妻からも浄霊をいただくと次第に熱が下がりました。足の痛みも少し治まり、ようやく杖を両手に持つて身体を支えることで、何とか少しずつ歩ける状態となりましたが、これは完治するまで相当の期間がかかりそうだと思います。

その後も毎日浄霊をいただき、特に腎臓部をしっかりといただくようになると、左足先から左膝、そして右膝から右足先の痛みや浮腫みがどんどん引いていきました。

私は内装関係の仕事をしていません。七月初旬にはどうしてもしなればならぬ仕事がありました。仕事が出来ない状態にまで回復し、わずかな期間で仕事に支障がないほどになり大変感謝しています。また、当時は新型コロナウイルスの影響で受注が減少していましたが、その後思わぬ方からも仕事をいただいたりして売り上げも持ち直し、生活の色々な面で御守護をいただいていると日々感謝しています。

明主様、誠に有難うございました。  
(福岡県北九州市)

上腹部の影が消え  
手術を免れる

千葉支部 大澤千栄子 (60)

私は会員さんの紹介で新健康協会に御縁をいただき、入会して十四年になります。その間、数々の御守護をいただきましたが、この度、私の夫(未会員)の奇跡体験をお伝えさせていただきます。

夫は、二十五年以上前に糖尿病と診断され、四年程前から週に三回透析治療を受けていますが、少しでも良い方向に…との思いで、毎日浄霊をさせていただいています。

令和二年八月五日、夫が透析治療のために病院で受診すると「上腹部に影が見えます。癌である可能性が非常に高いので、明後日の再検査後、コロナが落ち着いたら、すぐに手術することになります」と主治医より言われました。私は再検査当日の八月七日に支部へお参りし、御守護お

願いさせていたでいて、あとは明主様にお任せさせていただくしかないと思いつきながら帰宅しました。透析治療を終え、病院から帰宅した夫が「上腹部にあつた影がなくなっています。これだと手術はしなくて良いですよ」と、お医者さんより説明があつたと話してきました。その話を聞いた私は思わず「えっ」と、大変驚きました。手術をしなくて良いなんて…ただただ有難く感謝の思いでいっぱいになりました。おかげ様で大きな御守護をいただきました。そして、同時に命の継ぎ足しをいただいていることに心より感謝申し上げます。

こんなに素晴らしいおかげをいただける明主様の浄霊を、一人でも多くの方に試していただきたいと、心から念願致します。健康新聞を通して、沢山の方に知っていただけるように、これからも健康新聞の配布をさせていただきます。

明主様、誠に有難うございました。  
(千葉県船橋市)

椎間板ヘルニア後遺症

浄霊でよくなる

宗像支部 S (60代男性)

私は十九歳の時に、椎間板ヘルニアを患い、手術をしました。術後三年くらいは、体を前後に曲げることがほとんど出来ず、背中を伸ばしてはいないのだと、苦しい状態でした。そのため立っているか、横になっているかのどちらかでした。そして、この腰のだるさは新健康協会に出合うまで取れることはありませんでした。

私は二十二歳の時、一枚の健康新聞を見て新健康協会のことを知りました。その中の体験記を読み、浄霊で良くなるのであれば、私も試してみたいと思い、浄霊をいただくようになりまし。それから何度か風邪を引くことがあり、鼻汁や咳、痰が出ましたが、これが「身体の中をきれいにするための浄化作用」と教えていただきましたので、不安なく過ごすことが出来ました。おかげ様でこれらの症状が終わる度に、体が軽くなり、腰のだるさも和らいでいきまし。以前は、風邪を引いたら必ず薬を使用していたのですが、浄霊をいただくようになってからは薬を使用しなくても済む上に、浄霊でしか味わえない爽快感がありました。腰の痛みも何度かありましたが、回を重ねる毎に腰のだるさが軽くなっていき、体も軽くなっていきました。

薬を飲む必要がなくなった

三十代からは少しずつスポーツも出来るようになり、好きな野球やテニスも楽しむことが出来ました。数年前からはジョギングを始め、ゆっくりと五キロ程の距離を走っています。日々の浄霊のおかげは勿論ですが、こうしたジョギングも私の元気の源となつていると感じます。現在では薬を飲む必要がなくなり、安心して毎日を過ごすことが出来、この浄霊に心から感謝しています。

浄霊を病気で苦しんでいるたくさんの方に伝えたいと念願している次第です。  
(福岡県宗像市)

感謝の心

六十代女性、会員のIさんは、昨年再就職でおかげをいただき、今も元気に出勤することが出来ています。

今回、支部の感謝日にお参りさせていただきます。と思われていたのですが、その日も出勤となっていました。仕事を始めたばかりで休みの希望を出すのも申し訳ないと思われたIさんは、お参りは無理かな…と思いつつも、「お参りしたい」と、明主様にしっかりとお願いされました。

すると驚いたことに、同僚の方から「休みを変わってくれませんか?」と言われたそうです。Iさんは驚くとともに、喜んで「いいですよ」と答えたそうです。

おかげ様でIさんは、支部の感謝日にお参りされました。

Iさんは「支部にお参りすると、色々なことに気付かせていただいているので、感謝日にお参りできることが本当に嬉しい」と喜ばれていました。

浄霊入門⑫

(浄霊を体験したフランス人のつぶやき)

浄霊は比較できないものである。

浄霊は自然治癒をするエネルギーであり、霊的に目覚めるためのモノでもある。つまり、幸福に達するための方法であるが、まだまだ知られていない方法である。

ここ、新健康協会では「病気とは浄化作用」という概念が存在する。その概念を理解するのは、わりと簡単なことだが、それを受け入れるのは、容易なことではない。少なくとも、僕はそうだった：

病気への前向きなビジョンを提供することによって、病気を患っている者は、精神的にもリラックスできる状態になるし、さらに、回復にも影響してくる。

僕のように、はじめは「モノの見方」として捉えてもいいと思う。一般的には「病気は悪化する」と言われているので、一定の実績がある薬の助けをかりて、合併症が現れる前に症状を制御する。

しかし、病気は慢性的に不安を感じさせたり、それ以上に恐怖心を与えたりと、日常生活に支障をきたすときが度々ある。

新健康協会と言われる「浄化作用」は、不安を誘発する「病気」の概念からは、ほど遠いものだ。

そう、明主様は、自然治癒力を信頼することを提唱されている。人には病気になっても自ずと良くなる力が備わっている。

そのため、人は何千年も前から、自然が与えている治癒力に頼ってきたのである。

それゆえ、「浄化作用」というコンセプトは、幸福を推進するためのプロセスであり、恩恵である。「体内がきれいになっていっているのだ」そう感じていくのが大事なのだ。

いわゆる、これは良くなるために必要なものとも言えるのかな。

美の世界

明主様は、「美」による「心の浄化」を説かれました。世界の人々が美を楽しむ時、それは文化の進歩にも貢献する事となり人間性の向上にもつながり、天国世界が出現することにもなると教示されました。

「背景に九州」展

展示会ご案内

いくつもの島からなる日本列島のなかで、中国大陸や朝鮮半島により近い、南西に位置する島・九州。古事記

には筑紫島と記されたこの地方は、自立した国々であった頃はもちろん、統一国家となつてから、さらに近代を迎えてからも独自の文化を形成しているように感じられます。一つには中央との距離が保たれていることがその理由でしょうか。しかし交通網と通信技術が発達し、移動が容易に、情報も時差なく得られるようになった現代においても、ここに暮らしたことのある人々は九州という一つのまとまりに共感と愛着をおぼえるようです。実際のところは気候や風土、食べ物、言葉に至るまで多様ですが、なにか共有している近しさがあるのかもしれない。

明治以降、美術を志す者は東京や京都、そして海外に学びに行くことが多くなります。九州出身の藤島武二、青木繁、坂本繁二郎、古賀春江といった洋画家たち、富田溪仙、福田平八郎といった日本画家たちはいずれも一度は故郷を離れて研鑽を積

み、画家として世に認められていきました。なかでも薩摩藩に仕える武家に生まれた藤島は、東京美術学校で教鞭を執り、いわば日本の洋画の流れをつくる立場となります。一方、当時の活動の場は東京の官展や団体展が中心であったにも関わらず、坂本のように筑後に戻り、八女に構えたアトリエで制作したり、古賀のように何度も東京と久留米を行き来したりと、終生地元に思い入れを抱き

せん。江戸期に遡ると、オランダや清朝との公式な窓口、出島がある長崎には、蘭画や明清画、南宗画などを学ぶために滞在した画家がたくさんいました。新しい知見を本場の専門家に教わろうと全国から人が集った長崎は、きつと熱気にあふれていたことでしょう。また、海外にも出荷された伊万里焼をはじめとして、九州各地にはそれぞれ特徴豊かな窯業が栄え、今に受け継がれています。

今回は、そんな歴史を持つ九州で生まれ育った作家や、滞在した作家の作品、この地を描いたり所蔵されていたりといった九州にゆかりある作品を展示します。画風や具体的な形に表れるものではありません

が、作品のバックグラウンドにこの地が広がっていることを想像してみると、親しみをもって鑑賞してもらえるのではないかと思います。

解説 松田愛子

晴明会館

「背景に九州」前期展

期間：6月1日(火)～12月11日(土)

※晴明会館お問い合わせ ☎(092)661-11535

古賀春江 《池畔の風景》

